

筋萎縮性側索硬化症患者への支援
－ 事例研究を通して －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
松田 芳恵

筋萎縮性側索硬化症患者への支援は、個々の患者に合わせた、柔軟できめ細かい支援が求められる。今回筆者は、筋萎縮性側索硬化症患者への支援について、松田（2004）の事例を会話分析し、そこから患者、家族、主治医、ケア関係者への支援について検討した。会話の分析方法は、some types of functional support (A.C.Chamberlain, 2006) に Consulting support を加えた、筆者独自の分類方法を用いた。その結果、筋萎縮性側索硬化症患者への支援に必要な事は①コミュニケーション手段確保への支援、②患者の思いを聴く姿勢、③積極的に信じて待つ姿勢、④コーディネート支援であった。家族への支援に必要な事は、患者とのコミュニケーション手段を確保し、使えるように指導することであった。また、病気や症状についての平易な説明を行い病気への理解を深めることも重要であった。他の患者家族との面談も、介護者の情報収集として有効であった。主治医への支援に必要な事は、患者との面談を、適切な時期にコーディネートすることであった。ケア関係者への支援に必要な事は、患者が希望するケアの理由を説明し、拡大カンファレンスを開催することであった。本研究では、事例研究を通して普遍性のある議論を試みた。先行研究を引用しつつ、事例研究における普遍性と限界性について述べた。